

医療情報活用推進専門委員会

(令和2年度)

医療情報活用推進専門委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 医療情報活用推進専門委員会

委員長 三原 直樹

I. はじめに

近年、ICTやAIなどデジタル技術の発展は目覚ましく、人口減少・超高齢社会が到来し、医療従事者等の働き方改革も推進されるなか、新たな技術を活用して、適切な医療・介護サービスを効果的・効率的に提供することが期待されている。

こうしたなか、国ではデータヘルス改革を進め、広島県においてもデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進することとしており、医療等ヘルスケア分野においても、データやデジタル技術を活用した新たなサービスや付加価値の創出が希求されている。

現在、県及び広島県医師会では「ひろしま医療情報ネットワーク(HMネット)」を構築・運用しており、診療情報の開示・閲覧にとどまらず、薬局の調剤情報の共有機能やWeb会議システムの導入等、機能拡充を進めているところであり、引き続きHMネットの利活用を促進し、このネットワーク基盤を活かした高付加価値化を進めていく必要がある。

HMネットの加入拡大とDXによる高付加価値の創造を目指して、令和2年度、新たに医療情報活用推進専門委員会を設置し、「ひろしまメディカルDX構想」を検討した。

II. 活動内容

医療情報活用推進専門委員会を11月と3月の2回にわたり、開催した。

各回の議題および検討状況については、次のとおり。

1 第1回専門委員会

(1) 日時

令和2年11月18日(水) 19:30~21:00

(2) 場所

広島県医師会館 201 会議室

(3) 議題

- ・委員会設立の趣旨について
- ・ひろしまメディカルDX構想(案)の検討について
- ・推進体制の検討について

(4) 検討状況

事務局より、次の取組方針に基づく構想案(たたき台)を示し、構想案の方向性について、出席者の賛同を得た。

【取組方針】

- ・HMネットの基盤を有効に活用しながら、新たな取組に対応する。
- ・DXによってさまざまなデータを活用した医療の高度化、研究開発を進める。
- ・これらの取組を地域(コミュニティ)で推進する。

〔各委員からの主な意見〕

- ・患者の服薬フォローを義務付ける法改正が予定されており、薬局と医療機関とのやり取りも増えるため、HMネットでの紹介状の電子化に期待している。
- ・救急現場でのHMネットの活用を試行中であり、有効活用のためには県民へのHMカード普及が課題と思われる。
- ・コロナ禍で退院支援に支障が生じているため、オンラインでの退院前カンファレンス実施にHMネットの活用を検討している。
- ・オンライン画像診断は整備コストがかかる。HMネットの機能強化については優先順位をつけて検討すべき。
- ・市町単位での情報プラットフォームの構築は難しい。行政(市町)も利用できるプラットフォームの整備を希望する。
- ・医師会は行政、薬局、介護事業所等と連携し、

各圏域においてネットワークづくりを進めていく。

- ・ICTはツールにすぎず、どう活用するか、どういったサービスをのせるかが大事である。地対協という人的ネットワークを上手く活用すれば、近い将来、県民全員が便益を享受する仕組みづくりができそうだ。

2 第2回専門委員会

(1) 日時

令和3年3月29日(月) 19:00~20:30

(2) 場所

Web会議(事務局は広島県医師会館301会議室)

(3) 議題

- ・前回委員会の協議概要について
- ・ひろしまメディカルDX構想(案)について
- ・令和3年度医療情報活用推進専門委員会の継続申請について

(4) 検討状況

第1回委員会後に、地域における医療等情報利活用のニーズについてアンケートを実施し、ICT活用のニーズが高いもの・ICT活用で解決できそうな課題について、意見を聴取した。

第2回委員会では、そのアンケート結果を取りまとめ、委員からの意見をDX構想に反映させたものを構想(案)として提出し、概ね各委員からの了承が得られた。

また、令和3年度は、「広島版PHRの構築」及び「HMネットの救急分野への活用」の2つのテーマについて重点的に取り組むこととし、具体的に取組を進めるためのワーキングを設置することについて、委員からの了承を得た。

なお、「ひろしまメディカルDX構想」(案)については、後日実施する委員へのアンケートによる意見も踏まえて、委員長一任で成案とすることとした。

【DX構想の概要】

区分	目指す姿	必要な取組
健康づくり	○健康データを活用した、健康づくりに対する県民の意識が高まり、健康寿命が延伸している。	○広島県版PHRの開発 ○データを活用した健康づくり、健康経営の推進
医療の最適化	○健診データ・診療データの電子共有により、必要な情報が相互に連携できている	○HMネットの普及、参加施設拡大 ○電子紹介状・診療情報提供書の開発
医療介護連携	○県内全域でICTの利活用が浸透し、どこにいても安心して質の高い医療が受けられる。	○遠隔画像診断やオンライン診断・相談する体制・システムを整備 ○病院間で連携しWebカンファを実践
地域医療の支援	○患者への減薬指導や、後発医薬品への切替えが適切に行われている。 ○検査データ等の電子共有により、重複受診・重複検査等が抑制されている。	○電子版「お薬手帳」の普及 ○健診機関のデータをHMネットに自動反映するよう改良
救急・災害等の備え	○地域の救急医療体制や機能が維持・確保されている。 ○災害発生時等においても、診療体制が確保されている	○電子版「命の宝箱」、「救急支援・災害対策システム」の普及拡大 ○情報開示用の病院サーバーを院内設置から集約管理に移行
医療費適正化	○医療・介護従事者の多職種間での情報共有が、オンラインで行われている。 ○患者の診療情報や介護データが、退院支援、ケアプラン作成等に活用されている。	○介護データのHMネットへの集積 ○多職種連携を図るWeb会議機能の利用促進 ○介護職が利用するスマホアプリ開発

DXによる高付加価値化

医療の高度化	○医療機関と大学の連携強化に加え、集積されたPHRデータが創薬・医療機器開発等に活用されている。	○健診情報、健診・薬剤等の電子情報プラットフォームの構築 ○症例DBの作成、症例検討、AI診療の開発
--------	--	---

[各委員からの主な意見]

- ・医療介護連携における退院前カンファレンスにおいても、HM ネットの機能を活用するよう関係者間で研修等に取り組んでいる。
- ・医療介護連携，医師との円滑な情報共有などHM ネットの活用に期待する。
- ・ICT 技術の活用は，看護職の負担軽減や，患者へのより適切な対応にもつながる。
- ・医療機関の参加率向上のためには，かかりつけ医の加入促進がポイントになる。HM ネットの活用は，医療介護連携など診療報酬点数で評価されるため，それが医師へのインセンティブになるのではないか。
- ・HM カードの普及には，地域の取組が欠かせない。中でも，広島県版PHRの構築は，カード普及に効果的な取組になる。
- ・今後は，DX 構想の中から，重点的な取組を順序立てて進める必要がある。

Ⅲ. ま と め

診療データを中心とした Real World Data の事業や研究への利活用が重要視されるようになってきている。ここでは病院内のデータにとどまらず，生まれてから死ぬまでの生涯データの把握，利活用を目指したPHR 構想が本格化しようとしている。また政府が提

唱する Society5.0 をトリガーとした異業種同士の情報共有により，新たな産業創出の必要性が言及される時代となった。これらに対応するために必要なネットワーク・インフラ基盤として，マイナンバーなどをキーとした個人データの一气通貫で管理，利活用できる情報基盤システムが必要となってきた。

広島県では「HM ネット」の取組みを通じて診療データ，その他の情報について，ネットワーク上で管理し，時と場所を問わず閲覧し利活用できる環境構築が試みられてきた。全国的に見ても大きな規模ではあるが，情報利活用の観点ではまだまだ取り組むべき課題が山積しているのも事実である。また，広島県は，さまざまな分野におけるDXの推進に取り組んでいるところであり，今後は目的意識を持った必要項目の収集環境，それを実現するインフラ基盤を整備し，さらなる企画，安定した運用管理ができる体制整備が必要である。

地理的に見ても広島県では都市型，山間型等のさまざまな連携様式が可能な地域であり，日本の縮図であると考えられる。この地の利を活かし全国でも先駆けとなる成功例を生み出していくために，民間資本，学術領域の知見等を積極的に取り入れ，現在の枠組みを超えた取り組みを行っていくべきであると考えられる。

広島県地域保健対策協議会 医療情報活用推進専門委員会

委員長 三原 直樹 広島大学
委員 粟井 和夫 広島大学
板本 敏行 県立広島病院
今井真由美 広島県健康福祉局医療介護計画課
大田 泰正 広島県病院協会
加藤 誓 安佐医師会
喜岡 幸央 福山市民病院
熊野 智 広島県後期高齢者医療広域連合
小山 祐介 福山市医師会
先本 秀人 呉市医師会
新本 康司 呉市
田妻 進 JA尾道総合病院
近村美由紀 広島県訪問看護ステーション協議会
寺坂 薫 呉共済病院
堂面 政俊 広島市医師会
遠山 郁也 広島市医療政策課
徳永 彰 安芸高田市医師会
豊見 敦 広島県薬剤師会
永澤 昌 市立三次中央病院
中田 徹 広島市消防局
中谷 慎也 全国健康保険協会広島支部
中西 敏夫 広島県医師会
秀 道広 広島市立広島市民病院
藤川 光一 広島県医師会
古川 善也 広島赤十字・原爆病院
堀川 亮 三次市副市長
松原 昭郎 JA広島総合病院
溝上 慶子 広島県看護協会
宮本 浩二 日本医業経営コンサルタント協会
山口 まみ 広島県健康福祉局薬務課
山崎 健次 広島県歯科医師会
勇木 清 東広島医療センター
和田 圭司 福山市保健所
渡部 貴則 広島県介護支援専門員協会